

神奈川学園中学校

算数

2021 年度入試より問題構成を一部変更しましたが、各設問の狙いは変わっていません。**1**では計算力を確認します。**2**と**3**は独立の文章題で、基本・標準レベルの問題に対応する力の有無を見ます。**3**は答えだけではなく途中の式や考え方も記述する問題で、2021 年度より問題数を 1 問増やしました。**4**は読解力と条件を整理する論理的思考力を問う対話式の問題です。大問は**5**の 1 題のみになり、途中の式や考え方を記述する問題も含まれます。難度は 2022 年度と同水準です。まず、基礎的な問題で着実に得点できる力をつけ、そのうえで応用的な力を伸ばしてほしいと思います。

国語

全体の構成・配点などについては、2022 年度までの傾向と変わりません。最初に漢字、語句、ことばの使い方などに関する問題がいくつか続きます。その後に、小説の読解問題、説明文の読解問題がそれぞれ 1 題ずつあります。読解問題の文章の長さは、それぞれ文庫本にして 4～5 ページ程度です。漢字は音訓も含め、小学校 6 年間で習う範囲を超えないように出題します。小説・物語文の読解は、登場人物の心理・心情をつかむことが中心です。説明文は話の筋道をきちんと追い、筆者の言いたいことを正しくつかむことがポイントです。読解問題については書く力も見ます。

理科

すべての分野について、実験・観察をもとにした出題をすることは変わりません。ただし、出題する実験・観察を受験生が経験しているとは限りません。そこで問われるのは、問題文を注意深く読み取り、習った知識を使って考えていく力です。計算を伴う問題も出題しますが、大切なのは、計算力そのものより、与えられた理科の問題を計算式にできるかどうかということです。記述問題やグラフの読み取り、作成の出題も予定しています。身の回りの理科学的な体験やニュースについても、日ごろから関心を持って見ておいてください。

社会

地理分野は、日本の各地方の特色について、それぞれの地方の自然環境(地形や気候など)・農林水産業・工業・貿易・都市などを出題します。また、日本の産業などと特に関係の深い国についても学習しておきましょう。歴史分野の範囲は戦後の占領政策の終了までです。公民・総合分野では、日本国憲法、日本の政治、戦後から現在までの日本と世界などを出題します。ここ数年間に国内外で起きた大きな出来事についても学習しておきましょう。各分野とも地名・人名・用語などは、正しい漢字で書くことを心がけてください。

英語

英語試験は B 日程でのみ行います。英検®3 級程度を想定した試験となっており、筆記とリスニングが含まれます。筆記試験は七つの大問から構成されています。リスニングは 10 分程度です。対策としては、英検®の問題集に取り組むことをお勧めします。この試験の

合格者は英検®3 級レベルの力があると考えられますので、入学した 4 月から、より高いレベルのクラスで英会話の授業を受けることとなります。筆記試験の具体的な出題内容は、以下のとおりです。「単語の説明文を読んで、当てはまる英単語を選ぶ問題」「英文が成り立つように、適切な語句を選ぶ問題」「日本語に合うように、語句を並べ替えて、英文を完成させ、その 2 番目と 4 番目に来る語句を答える問題」「対話が成立するように、() に入る適切な表現を選ぶ問題」「E メールや広告文などを読んで、情報を読み取り、その内容に関する問いについて答える問題」「表やイラストを見て、英文を作る問題」「質問に対して、自分のことを英語で表現する問題」。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

鎌倉女学院中学校

算数

自分で問題を解決できる力を育てることを主眼としています。そのため、まず基本的な計算力や分析力を養うことが大切です。そして、基本的能力をフルに活用し、自分で新たな問題を発見して解決する意欲を身につけましょう。出題は「計算問題」「穴埋めⅠ」「穴埋めⅡ」「大問Ⅰ」「大問Ⅱ」の 패턴で行っています。分配法則や結合法則を上手に使って工夫して解くものや、直観力に期待する問題もありますが、冷静に考え、着実に解いてください。

国語

例年の出題パターンは、漢字の読み書き、言語問題、長文 2 題（物語文と説明文）です。言語感覚・思考力・想像力を試すことを主眼にしています。文章は長めなので、日ごろから読書を心がけ、読むことを好きになっておいてください。設問文を含め文章を正しく読み取り、的確に答えることが重要です。漢字の書き取りは、はね、とめ、字としてのバランスに気をつけて、ていねいに書きましょう。生活のなかで気になることばがあれば意味を調べ、自分のことばの世界を豊かにすることを心がけましょう。

理科

物理・化学・生物・地学の全分野から出題し、配点は各分野とも約 25% ずつとしています。設問に「漢字で…」 「小数で…」 などの指定があるときは、それ以外の解答は不正解で、中間点はないので注意してください。まずは苦手分野をなくし、どの分野も基本事項をしっかり理解しておきましょう。文章やグラフなどから情報を読み取り、得た情報を図示したり数式にしたりする力も重要です。自分の手を動かして、何度も取り組むことを大切にしてください。

社会

地理・歴史・公民の 3 分野から、ほぼ 3 分の 1 ずつの出題です。地理分野の事柄でも、歴史的・公民的に問うこともありますので、物事をさまざまな視点から考えられるようにしましょう。また、新聞やニュースから得られる知識や、資料を読み取る問題も出題するので、日々の学習のなかで地図やグラフを活用しましょう。教科書に載っている地名・人名・用語などは漢字で書けるようにしてください。

カリタス女子中学校

算数

①は小問の集まりで、基本的な力を測る問題をいろいろな分野から出題します。たとえば、計算、割合、比、規則性、図形、場合の数などです。②以降は基本的な問題に加えて応用問題も出します。そのなかには、ただ公式を当てはめて解くのではなく、基本的な知識を用いて、どのようにすれば解決できるかという思考力を必要とするものもあります。①は答えのみを書く形式ですが、②以降は考え方や途中の式などを求めるものもあります。そのような問題では、正解に至らなくても、考え方の方向性が正しく、計算についても途中でまで正しい場合は、途中点を与えることがあります。

国語

説明的文章と文学的文章の2題構成です。文章はそれほど難度の高いものではありませんが、速く正確に読み解く練習が必要です。設問は、記号問題や抜き出し問題のほかに、記述問題を必ず出しています。求められていることを正確にとらえ、解答に必要なポイントを的確にまとめる練習をしてください。記述問題の採点では、解答した内容に応じて部分点をつけています。また、各回とも漢字(読み・書き)の問題は全体の15%程度の割合で、小学校で学習する範囲から出します。記述問題で誤字・脱字があった場合には減点します。また、ことばの知識や文学史なども出すことがあります。

理科

基礎的な事柄が身につけているか、自分で考える思考力を持っているかを測るために、基本的な知識を答えるものと、具体的な実験結果や観察内容から、自分で考えて答えを導き出すものの二つのタイプの問題を出します。十分な知識を身につけるとともに、実験や観察から得られた情報と知識を組み合わせ、科学的に考える習慣をつけてください。ふだんから理科に興味を持ち、自分の知識を使って、身近な生き物や現象について考える練習をしておくといよいでしょう。配点は、物理・化学分野が約60%、生物・地学分野が約40%です。なお、力のつり合い、または電気をテーマとした問題を必ず出題します。

社会

受験生の皆さんの知識・理解・思考を問うことを目的とした出題となっています。具体的には、①基礎的な知識や理解、②初めて見るデータから傾向や現象を読み取る力、③初めて知る事柄や初見のデータから読み取ったことと、あらかじめ身につけておいた基礎的な知識や理解とを結びつけて考える力、④身につけている基礎的な知識や初めて見るデータに基づいて、自分なりの考えをまとめてわかりやすく記述する力、などを問います。また、⑤新聞やテレビなどで報道されているニュースについての知識や理解を持ち合わせているか、日本や世界で話題・問題となっている出来事・現象について興味・関心を持っているか、ということも知りたいと考えています。配点は、地理的分野が約20点、歴史的分野が約20点、公民的分野が約10点の50点満点です。本校の過去問をできるだけたくさん解いて、問題に込められたわたしたちの出題の意図を考えてみてください。

湘南白百合学園中学校

算数

4 教科入試では、計算・小問、グラフ、文章題、平面図形、空間図形が出題範囲です。過去問を参考にして弱点を補強しましょう。算数 1 教科入試では、計算・小問（文章題）が 70%で、そのほかに課題文を読み解きながら求める計算問題、データを扱う問題、考え方を表現する問題を各 10%ずつ出題します。本校ホームページ上に 3 年分の過去問題を掲載しているので、参考にしてください。

国語

4 教科入試での配点は、文章問題が小説 1 題（30～40%の配点）と、説明文もしくは随筆 1 題（30～40%の配点）です。ことばの問題（書き取り・文法など）も出題範囲です。記述問題（100 字を超える場合もあり）では、中間点をとっています。国語 1 教科入試では、漢字やことばの問題が約 30%、文学的文章問題が約 35%、説明的文章問題が約 35%です。漢字等は記述式になりますが、文章問題は主に選択式で解答していただきます。

理科

生物分野が 30%、物理・化学分野が 25%ずつ、地学分野が 20%です。基礎的学力・思考力・観察力が身についているか、科学への好奇心があるかを見るという狙いで出題します。計算問題や短文記述もあるので、練習しておくことが肝心です。

社会

地理は 40%前後、歴史は 40%前後、公民は 20%前後です。各分野の融合問題になる可能性もあります。統計・図表・グラフなどの資（史）料を見て内容を読み取れるようにしておき、写真や地図などにも留意しましょう。また、小学校の教科書に漢字で書かれている用語は、漢字で書けるようにしましょう。

聖セシリア女子中学校

A方式

基礎事項・重要事項を中心に出題します。単に知識の有無を問うだけではなく、思考の過程を重視し、それを点数化できるようなものにします。なお、一次・二次・三次試験とも出題傾向は同じで、問題のレベルも同程度です。

算数

大問は5題程度で、四則演算（逆算、割合、諸単位の計算を含む）、小問（特殊算を含む）、図形（角度・面積・体積など。定規・コンパスは不要）、グラフ、規則性の問題などを出題します。

国語

大問は4題程度で、漢字などの言語事項問題が1題、短文を作る問題が1題、長文読解が2題程度です。漢字は読み・書きともに出題し、短文を作る問題では、ことばを使いこなす力を測ります。長文読解の2題は文学的文章と説明的文章で、解答形式は記述（必ず含む）と選択とがあります。

理科

「生物と環境」分野が約30%、「物質と変化」分野が約30%、「運動とエネルギー」分野が約30%、「地球と宇宙」分野が約10%です。実験・観察から考えるものを出題します。解答形式は選択・記述（説明形式を含む）のほか、作図があります（定規・コンパスは不要）。理科用語については、漢字での解答を原則とします。

社会

大問は2題で、1題が歴史分野（約75%）、もう1題がテーマ問題（約25%）です。歴史分野は原則として6年生の社会の教科書「上」が範囲で、テーマ問題は教科書「下」に関連する最近の国内・国外の時事問題から出します。歴史分野、テーマ分野ともに、地図・資料を用いた出題があります。歴史用語・社会用語は教科書準拠の漢字解答を求めます。テーマ問題の説明形式の解答は、自分の「思い」や「考え」をどう表現しているかを採点対象とします。

B方式

【スカラシップ入試】1行問題を中心に、基本的な問題を約70%、発展的・応用的問題を約30%出題します。【英語】英検®4級レベルを中心とし、10分程度のリスニングテストを含みます（*TOEFL Primary*®スコア 212点レベル）。【英語表現】個別に行う「英語面接」では、英検®3～4級レベルの会話力を必要とします。「身体表現」はグループで行い、与えられた英文に、ジェスチャーやダンスを交えて、自由に表現します。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

※*TOEFL Primary*® is registered trademark of Educational Testing Service, Princeton,
New Jersey, U.S.A.,
used in Japan under license by Kumon Institute of Education Co., Ltd.
This website is not endorsed or approved by ETS.

清泉女学院中学校

算数

1期・2期・3期ともに、四則計算・速さ・割合・面積・体積・単位換算などの基本的な計算問題と文章題を出題します。すべて解答のみを記入する形式です。傾向はこれまでと同じです。

国語

1期・2期・3期すべてにおいて、説明的文章と文学的文章を提示し、そこに設けられている設問に答えさせるという形式は共通しています。記述問題も出題します。傾向はこれまでと同じです。

理科

1期・3期ともに、実験・観察をもとに考える問題が中心で、計算・記述もあります。ふだんから身の回りの自然現象に興味・関心を持ち、なぜそういえるのかを考える習慣をつけておくとよいでしょう。

社会

1期・3期ともに、地理・歴史・公民の3分野からおおむね2:2:1の割合で出題します。基本的な知識を問う問題だけでなく、グラフや地図を読み取る力、考える力を問う問題もあります。教科書の基本的な事柄を学習するとともに、地図帳を開く習慣をつけましょう。また、本・新聞・ニュースなどを通して、社会で起こっていることに目を向けましょう。

洗足学園中学校

算数

これまでとほぼ同様の方針で、基本的な知識や処理能力、応用力を見るため、さまざまな分野から出題します。考え方を記述する問題も出し、部分点を与えます。配点は問題によって異なります。計算に時間を取られないよう、速く正確に解く練習も必要です。

国語

説明文1題と物語文1題で、大問1題中の小問数は8問前後です。問題量が少なめなので、じっくり取り組んでください。大問ごとに3問程度の記述問題があります。記述の分量は行数で指定します。1行に25字程度書くことを想定していますが、多少の増減は構いません。解答文は完結させてください。内容により、部分点も与えています。

理科

大問は、例年どおりに物理・化学・生物・地学の4分野より1題ずつ出します。各分野の出題割合（配点）はほぼ同じで、75点満点中それぞれ18点前後です。小問の配点は難度により異なり、各1～4点です。どの回も記述問題を2問ずつ出題します。漢字指定の問いもあるので注意してください。

社会

これまで同様、地理・歴史・公民の3分野より大問1題ずつの出題です。配点は3分野ほぼ均等で、各大問は10問程度の小問で構成されています。地名・人名・法律名などの社会科用語は漢字で正確に書けるようにしておいてください。文章で答える記述問題は部分点も与えています。どの分野も基本事項をまんべんなく理解していれば、十分に解けると思います。

捜真女学校中学部

2023年度は2月1日・2日の午前と午後、4日午後に筆記試験を、3日に対話学力試験を行います。午前実施の試験は、国語・算数の2科受験と、国語・算数・社会・理科の4科受験のどちらかを選んでいただけます。筆記試験に加えて受験生本人の面接があります。対話学力試験は国語・社会で20分、算数・理科で20分の口頭試問型の基礎学力試験です。

算数

基本的な計算や単位換算、標準的な文章題や図形に関する問題の出題は例年どおりです。〇〇算などの知識の有無にかかわらず、その場で考えて解ける問題も出題しています。

国語

説明的文章・随筆・小説などの読解が中心です。自分のことばで説明する問題や、少し長めの記述を求める問題もあります。さらに、言語知識・常識・教養を問う問題や、新聞記事を扱った問題も出題しています。日ごろから問題をたくさん解いて、問に合った答え方を身につけましょう。

理科

物理・化学・地学・生物の4分野から幅広く出題します。計算問題、グラフを扱う問題のほか、教科書にある実験・観察に関する問題にも慣れておきましょう。初めて見るような内容の問題もあります。問題文を正確に読んで答える練習もしましょう。

社会

これまでと同じように小学校の教科書、受験用の参考書などに出てくる基本的な問題を出題します。歴史では時代の特色・人名・出来事などをつかみ、地理では日本地図を使って、47都道府県の特色・位置・産物・県庁所在地などをしっかり確認しておくことが必要です。政治・経済的分野を中心に、資料を読む力・思考力・表現力を見ていきたいと思っています。これについては、柔軟な発想で、かつていねいに解答してほしいと願っています。

日本女子大学附属中学校

算数

例年どおり、さまざまな分野から出題します。計算問題は、速く正確に解けるよう練習しておきましょう。応用問題では、問題文をしっかりと読み、整理していくことが重要です。グラフや図と問題文の状況を対応させて考えましょう。どのような問題もパターンとして認識せず、一つひとつよく考えて、答えに至る過程を意識しながら解く練習をしておいてください。

国語

さまざまな種類の文章を読み慣れておいてください。長い問題文は、内容を把握しながらある程度のスピードで読む力が必要です。自分のことばで書くことを求める問題を毎年必ず出題していますので、自分の表現で文章が書けるよう練習をしておきましょう。小さい問題をヒントにしなが、文章全体から総合的に考える習慣をつけるとよいでしょう。

理科

例年どおり、すべての分野から出題します。実験や観察に基づいて考える問題や、図・表やグラフなど、与えられたデータをもとに考える問題を主に問題を出題します。問題を解くには基本的な知識や計算力が必要となりますので、教科書を中心にしっかりと身につけておきましょう。そのうえで、学校での実験・観察には積極的に参加し、経験を多く積んでおきましょう。

社会

例年どおり、すべての分野から出題します。都道府県名、歴史上の出来事や人名など、基本的な用語は漢字で書けるようにしておきましょう。そのうえで、それぞれの時代や地域のイメージを持ち、一問一答式の覚え方をするのではなく、さまざまな事柄を関連づけて理解しましょう。教科書の図表や統計などの資料も、そこから何が読み取れるのかを再確認してください。また、世の中で起きた重要な出来事にも関心を持ちましょう。

聖園女学院中学校

算数

小数・分数の四則演算を含む計算問題と、単位・速さ・比などに関する穴埋め問題を出题します。文章題・平面図形・立体図形・関数など、幅広い分野が含まれています。文章題と立体図形では、式や考え方を記述する問題もあります。

国語

日本語の基礎学力を問う問題、そして日本語の文章を正しく理解し、運用・表現できる能力を問う問題を中心に出题します。漢字の読み書きと文章読解とで構成されています。記述問題では、解答内容に応じて段階点をつけています。文末処理や誤字による減点があります。解答用紙の文字は濃く大きくはっきりと、「相手(採点者)に伝わるように書く」という意識を大切にしてください。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野すべてから10点分ずつ出题し、ほかに時事などの総合問題の10点分を加え、計50点となっています。基本的なことを問う設問のほか、物理・化学分野を中心に、実験を題材に考察したり、計算をしたりする設問もあります。小学校の教科書に記載されている知識を基礎にして、提示されたデータや資料を読み取り、「考えて解く」という設問もあります。

社会

基礎的学力を問う問題を、地理・歴史・公民の各分野で10点ずつ、発展的学力を問う問題を地理・歴史分野の論述形式で10点ずつ出题しています。「2点問題×15問」+「10点問題×2問」の計17問で50点満点です。2022年度入試では、学校説明会などで配布した「入試に必ず出題されます」の地図からも出題しました。記述問題は漢字での解答を原則としているため、ひらがなで記入されている場合は減点対象となります。地理的分野の学習では、とにかく地図をよく見ましょう。歴史的分野は、各時代の特徴をしっかりとらえるようにしてください。公民的分野では、幅広く社会に関心を持つことをお勧めします。いずれの分野も教科書を中心に学習を進め、ぜひ過去問を解いてみましょう。また、発展的学力を問う論述問題は難しく考える必要はありません。問題文をしっかりと読み、落ち着いて考えてみると意外と問題文のなかに答えに結びつくヒントが隠されています。時間配分を考えて、論述問題に取り組む時間的な余裕を持てるようにしましょう。

総合力

時間は50分で、100点満点の試験です。

設問1(20問程度60点)は、対話文を読んで、指示された空欄や下線部に適語を選択肢より選んだり、記述したりして解答する問題です。計算や漢字の問題もあります。小学校学習指導要領の範囲からの出題を基本としていますが、科目横断的で、生活体験や時事的な内容からも出題します。

【アドバイス】学校で学んだ知識を使って、ふだんから考えたり想像したりする習慣を持つことをお勧めします。小さな疑問をそのままにしないですぐに調べ、小学校でも学んでいるSDGsと関係づけて考えることも試みましょう。また、物事への理解を深めるために、考えたことや想像したことを、家庭やクラスで積極的に話題にしていきましょう。

設問 2 (40 点) は、課題解決を提案する作文問題です。テーマは家庭や学校、地域に関する身近な事柄です。提案のアイデアをおおむね①提案内容、②提案理由、③工夫点・注意点の 3 項目に整理して書いていきます。字数制限はありませんが、解答欄は①②③ごとに分かれていますので、各スペースの範囲でまとめる必要があります。採点は、①②③それぞれについて出題意図を理解し、かつ明確に書かれているかの度合いで 0 点から 10 点の間で評価します。そして①②③全体として、ことばの使い方と全体のつながりなどを 0 点から 10 点で評価します。

【アドバイス】自分の興味・関心、自分の個性や良さなどについて、短い文章を書く練習をしましょう。その際に、主語と述語の組み合わせをよく考えることが大切です。また、文の意味に広がりを持たせるために、事柄の原因や理由は明確に書くように心がけましょう。そして、相手に伝わる文章になっているかどうかを確かめるために、「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「なぜ」「どのように」といった文章表現に欠かせない要素が漏れなく入っているか点検することも大切です。

横浜女学院中学校

算数

計算問題が4問、基本問題が6問、資料問題が1問、応用問題が大問として3題です。計算問題は整数・小数・分数の四則計算です。解き始めの計算問題は正しい順序で計算できるか、分数や小数の計算をきちんと行えるかを見る標準的なものです。基本問題（小問）はいろいろな分野の基本を問うものです。割合、比、いろいろな特殊算、数の性質、場合の数、平面図形、空間図形から出題する予定です。資料問題は、グラフや表などの資料を分析し、計算式を導き出していくものです。応用問題は、大問3題にそれぞれ小問3問ずつの計9問です。出題分野は、整数に関する問題、場合の数に関する問題、平面図形に関する問題を予定しています。小問の1問目は基本問題で、2問目は問題文をよく読み、きちんと考えれば正解にたどり着けるような問題ですが、3問目は論理的な思考力が必要になってくる場合もあります。全体的に考えやすい問題にしています。資料問題と応用問題（大問）は記述式で、式はもちろん、図や文章などさまざまなものに部分点をつけています。あらかじめ正答を導く努力を解答用紙に表してください。そのため、解答用紙もA3判の大きさにしています。

国語

「漢字」「論理的な文章（説明文）」「文学的な文章（物語・随筆）」の3分野から出題します。「漢字」は200字程度の文章の中で、「読み・書きの問題」4問、「誤字訂正問題」1問を出します。「論理的な文章（説明文）」「文学的な文章（物語・随筆）」では、3000字程度の文章を正確に読んで、内容がつかめるかを問う問題が大半となります。本文において中心となっている事柄を押さえながら読んでいけるようにしてください。また、本文から読み取った事柄を自分のことばにして、30～40字程度でまとめる問題も出題します。100字以内の記述では、問題解決的な思考力を問います。自分の考えや意見を記述できるようにしておいてください。

理科

試験時間は30分、配点は60点で、問題はカラー印刷です。出題分野は、物理・化学・生物・地学の4分野から大問4題です。形式は、知識問題、会話文を読んで解答する問題、表やグラフを見て解答する問題、計算問題、実験に関する問題などとなります。「記述問題」も出題します。基礎的な知識を組み合わせる、資料から読み取るなど、柔軟に考えれば正解を導けるものです。

社会

試験時間は30分、配点は60点で、問題はカラー印刷です。表や写真などを見て解答する問題や、時事問題などを出題する予定です。地理的分野・歴史的分野・公民的分野すべてから出題します。「漢字指定」の問題では、ひらがなでの解答や漢字の間違ひは不正解になります。「論述問題」も1問あります。基礎的な知識を組み合わせたり、資料から読み取ったりして柔軟に考えれば、正解を導ける問題を出題します。

英語

面接に加え、リスニングと口述描写を課します。面接では、英文の音読とその内容について質問をするほか、本文の内容を踏まえて「自分はどうか考えるか」も問います。英文の難度は、英検®3級の2次試験に用いられるものとおおむね同等です。リスニングでは、短い英文を聞き、それに合う選択肢を選びます。選択肢も英語で流れます。難度は英検®3級の2次試験とおおむね同等です。口述描写では、絵を見てその状況を英語で説明します。示される絵の難度は、英検®準2級の2次試験で用いられるものとおおむね同等です。採点の基準として重視するのは、「意味が伝わるかどうか」です。「とにかく話してみる」という姿勢を大切にしてください。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

横浜雙葉中学校

算数

1行問題を数問と、大問を数題出題します。計算問題や面積・体積の測定、割合と比、関数とグラフ、図形の性質など、特定の分野にこだわらずに、問題レベルも基本から応用まで幅広く出題します。これにより、基本事項の定着度、思考力や応用力、論理性を測ります。一部の問題では、途中の式や考え方を答案に書いてもらいます。問題によっては部分点を与えることもあります。

国語

漢字の読み書き、ことわざ・慣用句・敬語、そのほかのことばの問題と、読解問題2題を出題します。ことばの問題では、漢字の読み書きをはじめとして、その場の文脈に合った用法・使い分けの整理が必要です。文章読解では、基本的語彙の理解や、文脈的理解に立脚した正確な読解を求めます。さらに、それを自分のことばで表現できる力を身につけましょう。なお、記述問題においては、部分点を考慮しています。

理科

「基礎的な知識力・理解力などとともに、観察・実験の過程における科学的な思考力」「学習内容を日常生活と関連づけて理解する力」を見る問題を出題するように心がけています。物理・化学・生物・地学の4分野から出題し、総合的な力も求めます。解答の形式は、記号や用語だけでなく、図を描く、記述するなど、多様になるよう工夫します。その場合、部分点を考慮します。

社会

地理・歴史・公民の3分野からほぼ均等に出題します。地理は日本のさまざまな地域の自然環境・産業・貿易などについて、歴史は日本の歴史上の事件・人物・政治・文化・外交など全般から、公民は政治の仕組み・日本国憲法・身近な現代社会の事柄などについて出題します。漢字で書くように指定されている用語は、漢字で答えるようにしてください。理由や背景を説明する問題では部分点を考慮しています。